

# 那珂川町図書館

## オススメの1冊

『まほうつかいのノナばあさん』

トミー・デ・パオラ／ぶん・え ほるぷ出版 児童書【Eデ】

ノナばあさんは魔法使い。頭痛もお嬢さんの相談も、体にできたイボ取りも受け付けます。町中の皆から頼られているノナばあさんですが、大分年を取ってきたので人を雇うことにしました。そこでやってきたのは、のっぼのアンソニー。ノナばあさんの家の掃除や草むしり、洗濯などを担当します。

ある時、アンソニーはノナばあさんがスパゲッティを作っている所を目にします。ノナばあさんの魔法の鍋は、呪文を唱えるだけで料理が出来上がるのです！その鍋にだけは絶対触るなど言われていたアンソニーですが、ノナばあさんが出かけた時、ここぞとばかりに町中の人を招待し、彼女がしていた通りに鍋を扱いスパゲッティを御馳走しようと試みます。しかし、最後の呪文を見ていなかった為に、鍋からスパゲッティが溢れ出し勢いが止まらず大変なことに。アンソニーはその後どうするのか、気になる方は是非読んでみてください。

『青空の卵』 坂木 司／著 東京創元社 一般書【Fサ】

坂木司の親友・鳥井真一は“引きこもり探偵”。彼を何とか外に連れ出そうと、坂木は保険の営業の仕事の傍ら部屋に度々訪れ、自分の身の回りで起こる少し不思議な事件を彼に投げかけます。坂木から聞いた内容と事件の当事者等に尋ねながら、鳥井は次々と事件を解決していきます。男性に憎しみを持つ女性による「通り魔的犯行事件」や目が不自由な青年から受けた「人探しの相談」…。しかも何故か一度事件に関わった人は、その後も鳥井の部屋に度々やってくるようになります。鳥井は口が悪いですが、何だかんだ仲間思いなので人を呼ぶようです。家でシステムエンジニアの仕事をする傍ら、手の込んだ美味しい料理も作るのです。料理目当てにも人が来るのです。だんだん人に慣れていく鳥井を見て、坂木は嬉しいような、寂しいような気持ちになります。二人の成長を描いた感動の物語です。

『青空の卵』は『和菓子のアン』、『ワーキング・ホリデー』などで知られる著者のデビュー作。この物語は『仔羊の巣』、『動物園の鳥』と続きますのでシリーズを全部読まれると二人の成長ぶりがわかります。

那珂川市図書館司書（いちご大福）